



2020年 7月 6日
第1号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



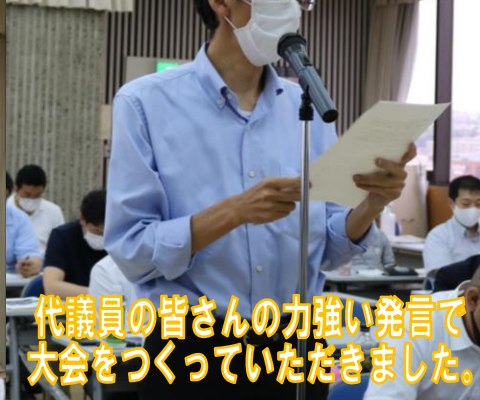
横浜地本第25回定期大会開催！

委員長挨拶



見事な采配をしてくださった議長団

佐藤中央執行委員長



代議員の皆さんの力強い発言で大会をつくっていただきました。



大会宣言を満場一致で確認

7月4日神奈川労働文化センターにて、JR 東労組横浜地本第25回定期大会を開催しました。新型コロナウイルス感染防止のため、傍聴の人数を減らす等、規模や開催時間の縮小をしての開催でした。

しかし、10名の代議員より1年間のそれぞれの実践が力強く発言されました。経過報告、協約・協定締結について、会計、スローガン、運動方針、予算、規約・諸規則の一部改正、大会宣言が満場一致で採決され、大会は成功裡に終了しました。大会の詳しい内容については、別号にてお知らせいたします。

仲間と確認した実践をもとに
さらなる組織強化・拡大を実現しよう！

大会宣言

JR 東労組横浜地本は7月4日、神奈川県労働文化センターにおいて第25回定期大会を開催した。18春闘以降の組織の存亡をかけた2年間のたたかいを総括し、スローガン、運動方針を含め全組合員でさらなる組織強化・拡大を実現していくことを満場一致で確認した。

2020年は、私たちが全く予想していない事態に直面した。世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症によって、経済も政治も未曾有の危機に瀕している。労働者や生活弱者の犠牲の上に時代の転換や経済再生などあってはならない。この難局こそ雇用と命を守るために労働組合の真価が問われる。

組合員は、新型コロナウイルスの感染リスクを負いながらも、公共インフラという重要な社会的使命を果たすために現場で奮闘してきた。JR 東労組横浜地本は、組合員の不安や職場環境改善を求める意見を集約し、会社に解決を求めてきた。これからも「社員の安全なくして、お客さまの安心なし」を基本姿勢に、職場からの声を原点に安全・安心な鉄道輸送実現に向けて対策の検証と強化を進めていく。

活動が制限される中でも、コロナ対策や夏季手当の要求づくりとして、組合員の声を反映させるべく創意工夫したたたかいを職場からつくり出してきた。また、諦めることなく相手に関わり続け再加入や新規加入を実現しようと奮闘していることや、世話役活動やサークルを通じた組織強化が過半数代表者選において成果を生んだ教訓が代議員から語られた。今日の逆境の中で切り拓いたあらゆる運動は何ものにも代えがたい財産である。

20春闘では、終身雇用や年功序列賃金などの日本型雇用からの脱却や一律横並びの集团的賃金交渉の終焉など経営側の意図が明らかとなった。JR 東日本にとっても例外ではなく、それが「変革2027」そのものである。超高齢化社会と労働力人口の減少、第四次産業革命ともいわれる時代の転換期に直面している現実を否定するわけにはいかない。しかし、4月1日からはじまった「新たなジョブローテーション」施策の運用に関して、組合員自らが描いたキャリアプランとは程遠い事態も発生している。組合員から3件もの簡易苦情処理が発生したことは異常である。労使で確認した運用基準を反故にすることは絶対に許してはならない。安全・健康・ゆとり・働きがいのある職場を実現するために、組合員の声をもとにすべての施策の点検・検証を行っていく。

JR 東労組から逃亡し財産を持ち逃げした輩は分裂組織を立ち上げたが、横浜地本管内でも彼らに同調し組合員を裏切った者が居る。しかし彼らの嘘と誤魔化しに騙されず、横浜運輸区分会や水戸・東京・八王子地本の仲間を暫定執行部を立ち上げ、組合員の利益を守るために奮闘している。私たちは、彼らと固く団結し、JR 東労組運動を推し進めていく。

私たちJR 東労組横浜地本は「新生JR 東労組運動宣言」のもとに一致団結し、自由闊達な議論から全組合員で運動をつくり出し、JR 東労組の未来を切り拓こう！

以上、宣言する。

2020年 7月 4日
東日本旅客鉄道労働組合
横浜地方本部
第25回定期大会